

たきかわ「^わ環のまち」物語

年次報告書(案)

(平成22年度版)

滝川市

◇たきかわ「環^わのまち」物語 年次報告書とは

滝川市では「たきかわ「環のまち」物語～滝川市環境基本計画・地域行動計画～」(以下、「環境基本計画」という。)という環境に関する計画を平成18年3月に策定(平成23年3月に改訂)しました。環境基本計画では、滝川市では環境においてどのような取組が行われているか、また実際にはどこまで成果が上がっているのかなどを、毎年、検証することも取り決めています。この報告書はその一環として前年度の状況などをとりまとめて、皆さんにご報告するためのものです。

☆「たきかわ「環のまち」物語 ～滝川市環境基本計画・地域行動計画～」とは

ひとくちに環境といっても、様々な切り口がありますが、この計画では次の4つの視点(ここでは「物語」と呼んでいます。)から目指すべき将来の姿を描いた上で、それぞれにおいて達成すべき数値目標などを設定しています。

1 資源の環(わ) 循環 物語

廃棄物の発生抑制やリサイクルを推進します。

2 創エネ・省エネ 物語

エネルギーの消費抑制、再生可能エネルギーの利活用を推進します。

3 農・山・川 物語

豊かな自然環境、農業にふれあい、育む活動を推進します。

4 人の環づくり 物語

環境づくりを担う人材育成とネットワークづくりを推進します。

計画では次のとおり具体的な数値目標を設定しています。

項目	H16(参考)	H27 目標値	備考
1人あたりのごみ排出量	935g	750g	1日1人当たりの排出量
リサイクル率	21.7%	30.0%	
バイオマス資源の利用率	—	—	バイオマスタウン構想で別途規定。
省エネモニターのCO ₂ 削減量	—	前年比平均6%減	
農業体験年間参加者数	1,193人	1,500人	年当たり
石狩川ルネサンスの森市民植樹祭植樹本数	—	7,700本	H18～27の累計
環境学習リーダーの人数	—	100人	H18～27の累計
環境市民大会の参加者数	—	100人	1開催につき

※平成23年3月の改訂により平成23年度からの取組に対する目標値は一部修正されています。

(1) 資源の環(わ) 循環 物語

1 平成 22 年度における数値目標の達成状況について

一人あたりのごみ排出量（資源回収等除く）		☆前年度までの状況	
目標値（平成 27 年度時点）	750 g / 人・日	H18	896g/人・日
実績値（平成 22 年度）	934 g / 人・日	H19	889g/人・日
		H20	873g/人・日
		H21	897g/人・日

リサイクル率		☆前年度までの状況	
目標値（平成 27 年度時点）	30.0%	H18	20.4%
実績値（平成 22 年度）	19.7%	H19	20.4%
		H20	19.8%
		H21	19.2%

今後に向けた課題など…

22 年 7 月から新たに古紙の分別収集を開始し、リサイクル率は前年度よりも改善しました。しかし、総体的にごみ排出量は増加してしまいました。

区分	単位	22年度	21年度	
収集人口①	人	43,281	43,594	
収集世帯	世帯	21,245	21,189	
家庭系+事業系	生ごみ	トン	3,922	3,920
	燃やせるごみ	トン	8,114	7,821
	燃やせないごみ	トン	874	833
	粗大ごみ	トン	1,246	1,225
	資源ごみ	トン	600	471
	計 ②	トン	14,756	14,270
資源化量 (資源回収以外)	燃やせないごみ・粗大ごみより回収	トン	566	469
	生ごみより回収	トン	157	157
	資源ごみより回収	トン	581	455
	計 ③	トン	1,304	1,081
資源回収	トン			
拠点回収	トン	35	42	
集団資源回収	トン	1,958	2,016	
資源回収の合計 ④	トン	1,993	2,058	
合計 ⑤(②+④)	トン	16,749	16,328	
1人当たりの日排出量/人(資源回収分除く)	トン	0.934	0.897	
1人当たりの日排出量/人(資源回収分含む) (⑤/①/年間日数)	(参考)全国	トン	0.994	
	(参考)北海道	トン	1.037	
	リサイクル率 (③+④)/⑤	トン	19.7	19.2
(参考)全国	トン	20.5		
(参考)北海道	トン	20.4		
(参考)家庭系ごみ(資源ごみ及び資源回収除く)の1人当たり日排出量	トン	0.594	0.570	

表 1 滝川市の一般廃棄物回収処理内訳について

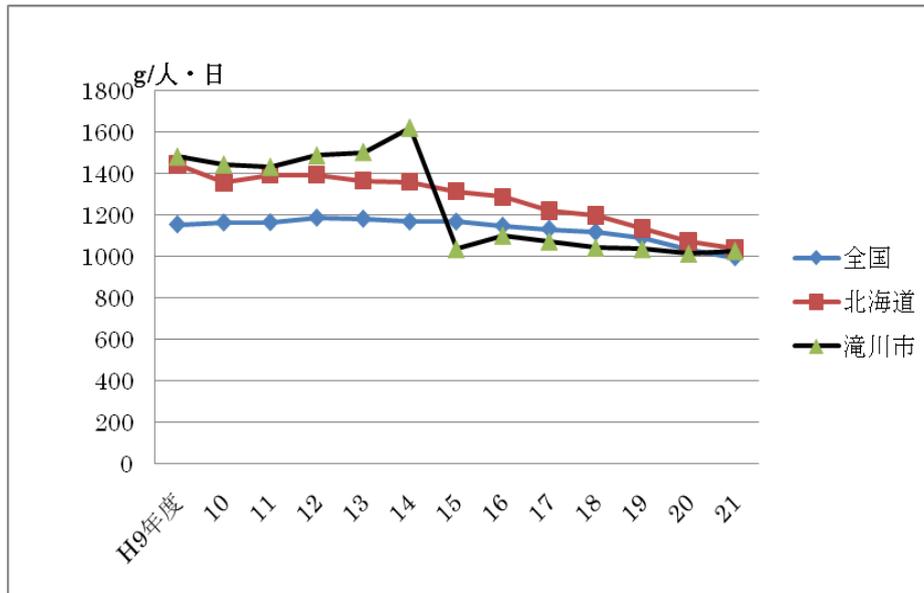


図1 一人あたりのゴミ排出量の推移

2 平成 22 年度における主な取組について

(1)資源ごみの分別収集品目の拡大

従前、市は「びん」・「缶」・「ペットボトル」の 3 種類を「資源ごみ」として定期収集していましたが、平成 22 年 7 月から新たに古紙類を収集対象に追加しました。これまでこういったものを自ら施設へ運搬・搬入することができなかつた方や、町内会等の団体による資源回収が行われていながつた地域の方々などは、これを機に、より手軽に古紙類を資源として排出していただけるようになりました。

・ 7 月～3 月までの古紙回収量 110 トン

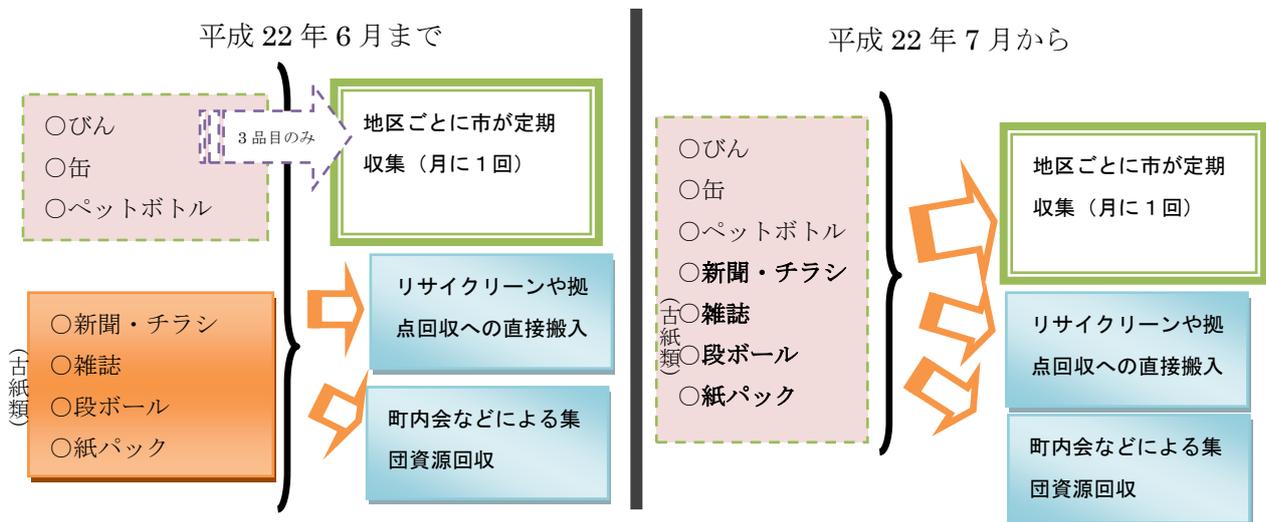


図2 市が収集する「資源ごみ」の分別対象品目の変更

(2)集団資源回収事業

町内会をはじめとした各種団体において、資源の回収を奨励し、回収された資源の量に応じて、補助金を交付するものです。

- ・実施団体数 170 団体
- ・補助金交付額 391 万円

単位：t

		22年度	21年度
区分	紙パック	7	6
	紙類	1,539	1,597
	びん類	181	188
	金属類 (スチール缶、アルミ缶、その他金属)	119	124
	ペットボトル	111	100
	その他	1	1
	計	1,958	2,016

表2 集団資源回収の回収内訳について

(3)カレンダーリサイクル事業

年末年始に個人や事業所等で受け取るカレンダーや手帳などのうち、自らは使用する見込みのないものを提供していただき、これらを「駅前ひろば く・る・る」(スマイルビル地下1階)にて展示させていただき、希望者に対してその場でお渡ししました。期間中、約544点が新たな持ち主に引き取られ、有効活用が図られることとなりました。

(4)滝川市フリーマーケット情報交流事業

滝川市内で開催されるフリーマーケットの情報を市が滝川市公式ホームページや電子メールを通じてPRし、フリマの活性化を支援する取組です。電子メールでの情報は市内外を問わず予めアドレスを登録していただいた方に対して随時、送信します。

- ・発信したフリーマーケット開催情報の件数 6件
- ・メールアドレス登録者 60名

滝川市フリマ開催情報が携帯電話からご覧いただけます。



ここからアクセス!

QRコードが読み込めるカメラ付き携帯電話で、市内で開催されるフリマ情報がご覧いただけます。

また、滝川市くらし支援課のホームページから開催情報の発信依頼や情報受信登録ができるようになりましたので、ご利用下さい。

(5)リサイクルフェアの開催

市内でも屈指の規模のフリーマーケットが展開される滝川市リサイクルフェアは、今回も空知自動車学校様の御協力をいただき、同校教習コースで開催される「WaiWai フェスタ」と合同イベントとして実施しました。

当日はフリマ以外にも古着の回収(協力:株式会社キョクサン)や廃食油の回収、生ごみ肥料の即時販売なども併せて行われ、多くの人々の参加のもとで、大きな盛り上がりを見



せました。

- ・開催日 9月12日(土)
- ・フリマ出店区画数 68区画
- ・古着の回収量 150kg
- ・廃食油の回収量 10リットル

(6)「たきかわ地域未利用資源発掘セミナー」の開催

地域で十分に活用されずに眠っているバイオマス(有機性)資源について関係者間における認識を深めるため、全国における先進活用事例について学ぶ機会として「たきかわ地域未利用資源発掘セミナー」を開催しました。

- ・開催日 7月2日(金)
- ・開催場所 ホテルスエヒロ
- ・報告された先進活用事例
 - ①長崎大学大学院生産科学研究科 中村 修 准教授
「し尿・生ごみ由来の液体肥料の地産地消実践事例について」
 - ②電源開発株式会社 環境エネルギー事業部 椎屋 光昭 上席課長
「下水道汚泥の燃料化事業の推進について」
 - ③南幌町まちづくり課 小林 史典 主幹
「稲わらのペレット燃料化事業の推進について」



【長崎大学 中村先生の講演録から】

「(九州の福岡県築上町ではし尿を発酵させ、液肥として水田などで活用しており、) 小学校の授業で化学肥料とウンコで育てたお米のそれぞれの違いを教えます。ウンコやおしっこの中にミネラル分を多く含んでいて、お米がおいしくなるという話をします。そうして、その後、町のホールでシンポジウムを開いて、その授業を受けた子どもたちに発表をさせます。もう8年もやっています。町のホールで我が子が発表するとなると、大人は聞きに行きます。午後からは、大学の先生が話をするとともにみんな帰っていくのですが…。それをずっとやっていると、3年目くらいから(「そんな汚いものを農地にまくな!」といった) 役場へのクレームがびったりと止まりました。子どもたちは何というのか? 1年目には「我が町は循環型社会のトップランナーだ」といい、2年目には「ウンコは宝だ!」というわけです。つまり、よその町は石油を輸入し下水処理場で処理して浄化処理し、化学肥料を輸入して農作物を作っているが、我が町はウンコさえすれば、それを肥料にして米ができる、しかもウンコで作った米はうまい! 授業でうまいと思わせることが大事なのですが、そういうふうになっていきます。」

(2) 創エネ・省エネ 物語

1 平成 22 年度における数値目標の達成状況について

バイオマス資源の利用率

目標値 バイオマスタウン構想で別途規定

→本計画策定後に「滝川市バイオマスタウン構想」（平成 18 年 9 月公表）を策定・公表したところであるが、その際に既に利用率が廃棄物系バイオマスにおいては 90%を超えていたことから、同構想では利用率として数値上はこれ以上の目標値を設定せず、これまでの取り組みを「さらに量及び質において高め」ることとしていることから、ここでも数値目標として検証対象から除外することとする。

省エネモニター(P9参照)のCO₂削減量

目標値（平成 27 年度時点） 前年比で平均 6%削減

実績値（平成 22 年度） 1.02%減

※本省エネモニターは電力消費量のみを対象としており、これに対応する CO₂ 排出量を算出した上で検証データとした。また、現時点では電力会社から H22 年度の CO₂ の排出係数が公表されていないことから、H21 年度と同値で算出している。

☆前年度までの状況

H18	データなし
H19	13.3%増(4.9%増)
H20	10.4%増(2.9%減)
H21	27.5%減(0.78%増)

※()内は電力消費量の増減を表しています。



今後に向けた課題など…

電力消費量は前年度よりも、削減することができましたが、今後も引き続き、震災の影響などを考慮し、さらなる省エネを推進していく必要があります。

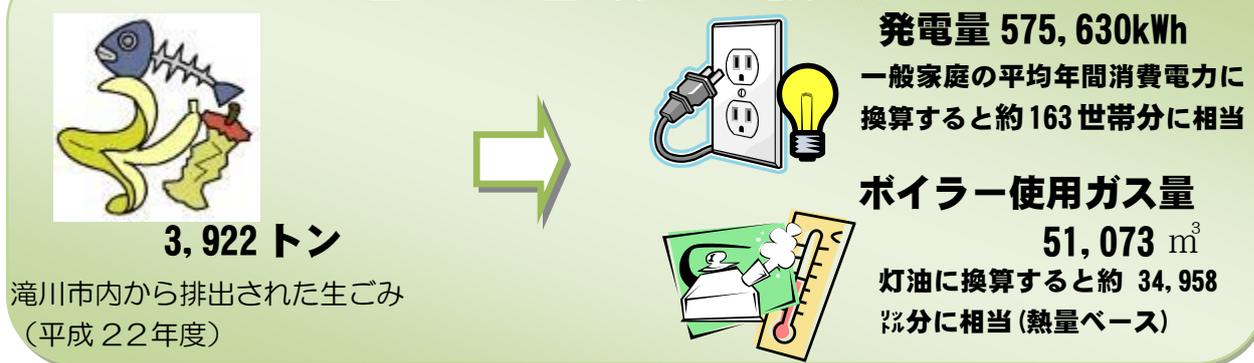
2 平成 22 年度の主な取組等について

(1) バイオマスのエネルギー利用

① 生ごみのエネルギー利用

市内東滝川にある中空知衛生施設組合リサイクリーン（滝川市のほか赤平市、芦別市、雨竜町、新十津川町と共同で運営）では、各市町で分別回収された生ごみ（一般廃棄物）から、メタンガスというエネルギーを取り出しています。メタンガスは発電機やボイラーの燃料として供給され、電力や熱に変換され施設の運営等に活用されています。

リサイクルで生ごみから生み出された電力と熱



※それぞれ、施設全体の発電量及びボイラー使用ガス量に滝川市の生ごみ排出割合(58.9%)を乗じた値です。

図3 生ごみからのエネルギー回収イメージ

② 下水道汚泥のエネルギー利用

滝川市の下水道は石狩川流域下水道(北海道及び6市4町により運営)に接続されており、奈井江管理センターという下水道処理施設に送られ浄化されます。そこでは、浄化処理の過程で有機物からメタンガスを取り出し、生ごみ処理と同様、得られたガスを電力や熱に変換して利用しています。

	施設全体	滝川市分
I 汚泥処理量 (トン)	3,982	1,624
II 消化ガス発生量 (m ³)	1,230,061	501,619
III 消化ガス使用量 (m ³) →消化ガス発電等として利用	1,058,153	431,515
IV 発電量(kWh)	1,760,514	717,938

表3 下水道汚泥の発生量及びエネルギー回収等について

※II及びIIIの滝川市分は下水処理量の割合から案分した値です。

③ 植物油の軽油代替燃料利用

市内の一般家庭や学校給食などから回収した使用済み食用油(植物油)を、公用車輛等に専用の燃料化装置を導入し、自動車燃料として活用しています。

- ・回収ボックス設置箇所数 27カ所
(うち、民間事業所の協力による設置箇所9カ所)
- ・稼働車輛

ごみ収集車	4台
公用中型バス	1台
公用車	1台
- ・天ぷら油消費量 9,345ℓ

※この取組によって、9,345ℓの軽油の消費をカーボンニュートラル¹といわれる天ぷら油(植物油)で代替できたことになり、これと同量の軽油を燃料として使っていた場合に発生したであろう二酸化炭素(CO₂)約24トンを削減したのと同じ効果があったといえます。

¹ 植物由来の燃料を燃焼させた場合に排出する二酸化炭素は、それが成育中に光合成の作用で大気中から吸収したものであるとみなし、大気中の二酸化炭素の総量には影響しないという考え方。

(2) 「たきかわエコ・エネスクール」の開催

日頃、私たちが利用するエネルギーに対してさらに関心を高めてもらうべく、「大人の部」と「子どもの部」に分けて、それぞれイベントや出前教室を開催しました。

①大人の部「エコドライブ&エコライフトークショー」

- ・開催日 10月30日(土)
- ・開催場所 ホテルスエヒロ

フランス在住の女性レーサー三上和美さんをゲストに迎え、エコドライブの実践テクニックを伝授していただくとともに、フランスにおけるエコライフの考え方などについて自らの体験等を交えながら、私たちにやさしく語りかけてくれました。



また、会場入口付近ロビーでは、各社の協力*の下、省エネルギー型製品の展示コーナーを設けさせていただき、設備面からの省エネ対策の有効性についてもPRを行いました。

※御協力いただいた事業者等(敬称略、五十音順)

滝川ガス株式会社、北海道エコネットワーク、北海道電力株式会社

②子どもの部「ゆかいな新エネ実験教室」

- ・開催日 10月7日
- ・会場及び対象学年 (午前) 滝川第一小学校 4年生
(午後) 江部乙小学校 4年生及び5年生

講師に漫才コンビ「ダムダムダン」さんを迎え、ユーモアに満ちた楽しい授業や児童一人ひとりが太陽光発電の実験キットの制作体験を通じて、地球温暖化の影響や新エネルギーに関する基本的知識や意義などを学びました。



(3) 「滝川市地域省エネルギービジョン(重点ビジョン)」の策定

平成21年度に「滝川市地域省エネルギービジョン(初期ビジョン)」を策定し、地域における省エネルギーの推進に当たって、基本的データの整理や取り組むべき方向性の検討を行いました。

平成22年度は、これに続き、「滝川市地域省エネルギービジョン(重点ビジョン)策定検討会議」(委員長:北海道工業大学 魚住准教授)において、初期ビジョンで重点プロジェクトとして位置付けられた公共施設での省エネルギーの具体的推進方策について、効果やコスト面などを含め、総合的な検討を行っていただきました。

併せて、省エネ技術の先進的事例の視察を行い、札幌の建設事業者が開発した家庭や事業所等の建物から発生する廃熱を使った融雪システムや飲食店でのLED照明の導入事例など、これからの普及が期待される様々な技術や設備などについて情報を共有し、参考としました。

(4)滝川市役所への新エネ・省エネ設備等の導入

滝川市役所では、新エネルギーの導入促進への取り組みの一環として、庁舎に太陽光発電設備を導入しました。また、同時に省エネルギーへの取り組みとしても、庁舎内の蛍光灯をこれまでのものよりも高効率な器具に更新し、消費電力の低減化を図りました。

①太陽光発電設備の設置

一般的な太陽光発電パネルは屋根や屋上、前庭などに設置されることが多いのですが、垂直に切り立った市役所庁舎南側壁面に貼り付けられた黒い発電パネルは、パネル自体が軽量であり建物に対する影響が少なく、冬期間の積雪の影響なども抑えられるといった特徴があります。



- ・ 定格出力 **5kW**
- ・ 年間発電見込量 **約 4,500kWh**
平成 23 年 1 月～3 月の発電実績 **約 1,300kWh**
- ・ 発電パネルの種類 **アモルファスシリコン**
- ・ 発電パネルの大きさ **約 18m (縦) × 約 6m (横)**
(230mm×1,900mm のパネルを縦 78 枚、横 3 枚、計 234 枚設置しています。)

②高効率型蛍光灯器具への更新

市役所庁舎内の蛍光灯器具(安定器)965 基及び蛍光管 1,930 本を、従来よりも消費電力の少ない HF 型といわれる省エネタイプのものに交換をしました。この対策によって 1 年間に削減される電力消費量は約 14,000kWh が見込まれています。

→これらの取組によって、滝川市役所の年間 CO₂ 排出量は従来に比べ約 7 トンの削減が見込まれます。

(5)省エネモニターの実施

各家庭で生活のなかでのエネルギーを意識していただきながら、具体的に省エネルギーにいかに取り組むべきかを考えていただけるよう、一般市民を対象に省エネモニターを実施しました。なお、対象エネルギーは幅広い参加を促すため、電力のみとしております。

- ・ モニター参加世帯数：**53 世帯**
- ・ モニター対象期間：**平成 22 年 8 月～平成 23 年 2 月検針分**

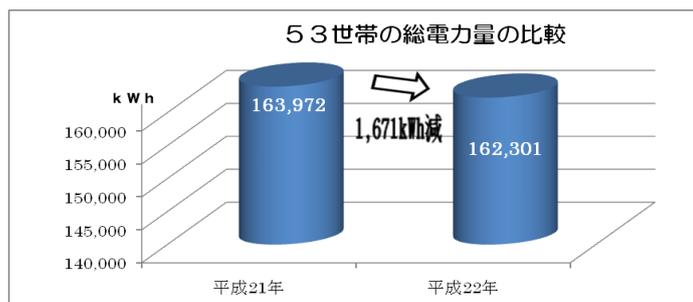


図 4 モニター世帯における電力消費量の推移について

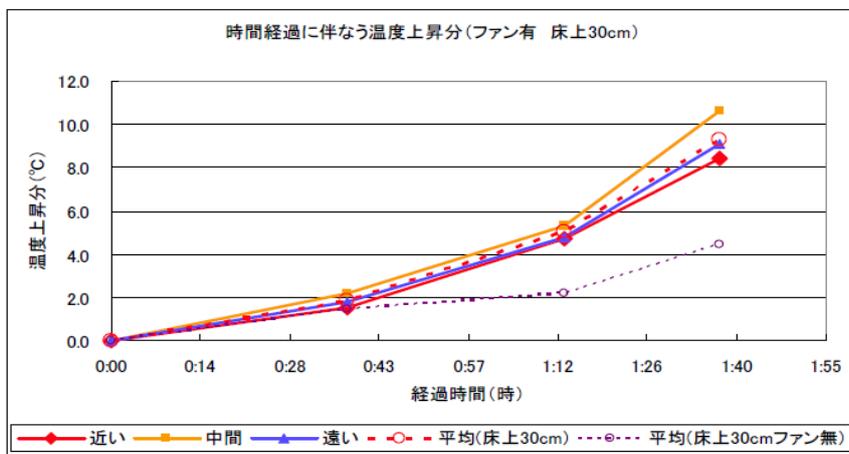
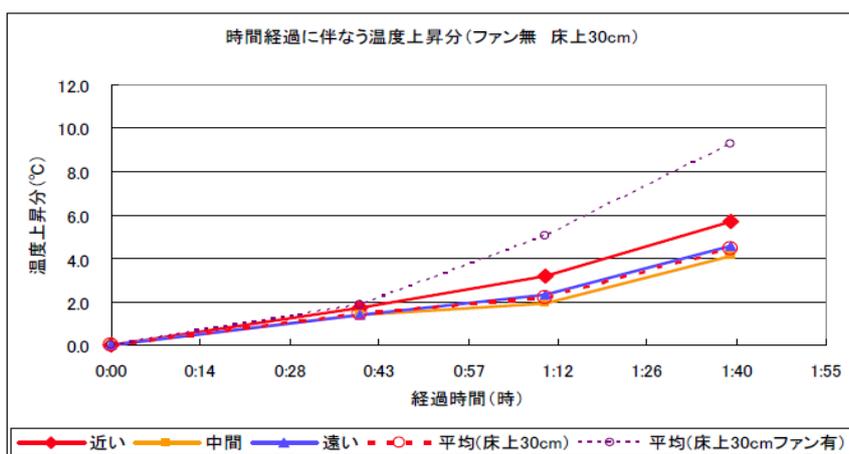
対象期間中、御協力いただいた 53 世帯において消費された総電力量は、前年度同期間よりも 1,671kWh (1.02%) の減になりました。ちなみに、この削減分に相当する電力を発電する際に排出される二酸化炭素は約 0.7 トンと推計されます。

冬の教室には扇風機を??

滝川市内のほとんどの小中学校は昔ながらの校舎が多く、児童や生徒たちは教室ごとに設置されたポット式ストーブによる暖房で冬場の寒さをしのいでいます。ストーブでの暖房はそれぞれの教室ごとに状況に応じて調整ができるというメリットがある一方で、教室内でみると、ストーブの周辺は必要以上に暑く、逆にそこから離れた出入口付近まで暖まるのにかなりの時間がかかるという難点があります。

そこで、この温度のムラを少しでも解消し、できるだけ早く暖房の熱を教室全体に行き渡らせるために、ストーブ横にファンを設置し、その効果を調べる実験を行いました。

その結果、下のグラフのとおりファンを設置した方(下グラフ)が、何もしない(ファン設置なし、上グラフ)よりも教室の暖まり方が早いということがわかりました。ただし、この実験は休日の無人の教室で、大型のファンを用いて実施した結果であることから、実際の学校生活に支障を及ぼさない形での適切なファンの設置方法や大きさなどについては、もう少し検討が必要になります。



出典：「滝川市地域省エネルギービジョン（重点ビジョン）報告書より

(3) 農・山・川 (ノー・ザン・リバー) 物語

1 平成 22 年度における数値目標の達成状況について

農業体験（グリーンツーリズムを含む）年間参加者数

目標値（平成 27 年度時点） 1,500 人/年

実績値（平成 22 年度） (データなし) ※

※民間での受入れ者数について一部、とりまとめられていない分などもあり、比較対象としてきたデータが把握不能となったことから。データなしとしました。

☆前年度までの状況

H18 1,237 人/年
H19 1,274 人/年
H20 1,311 人/年
H21 データなし

「石狩川ルネサンスの森市民植樹祭」植樹本数

目標値（平成 18～27 年度累計） 7,700 本

実績値（平成 22 年度末累計） 3,970 本

(うち平成 22 年度 370 本/年)

☆前年度までの状況

H18 2,100 本/年
H19 500 本/年(累計 2,600)
H20 600 本/年(累計 3,200)
H21 400 本/年(累計 3,600)



今後に向けた課題など…

植樹の推進に加えて、豊かな自然とのふれ合いや、農業体験など総合的な施策を通じて、滝川の自然環境を守り育てていく意識付けが必要があります。

2 平成 22 年度の主な取組等について

(1) 地域農業の振興と住民等との交流促進のための取組

① ふれ愛の里・秋の体験と収穫祭

- ・開催日 平成 22 年 10 月 11 日
- ・内容 体験そば打ち・パンづくり、野菜収穫、滝川市観光大使横綱白鵬関セレモニー、新米の試食販売 PR、新そば販売 PR、ハルユタカ製品販売 PR、相撲グッズ販売、ちゃんこ販売



② 農業体験事業の推進

i 心と体を育てる体験型食育教室(「滝川おもしろ食育塾」)

地域の農業者を中心に結成された「滝川おもしろ食育塾」が、地元の大学と連携し、農業体験等を通じて、学生たちに食や環境の大切さについて理解を深めてもらうためのプログラムを実施しました。

- ・対象 國學院大学北海道短期大学部幼児・児童教養学科児童教育コース 2 学年 19 名
- ・内容 稲作体験（田植え、草取り、生き物観察、稲刈り、はざかけ、脱穀）
研修会（稲わら工作「わらじづくり」）



ii グリーンツーリズムに係る取組

- ・「そらちDEい〜ね」²を通じて、全国から多くの子どもたちが滝川で農家とのふれあいの中で、農作業などを体験しました。

時 期 平成 22 年 5 月 24 日～平成 23 年 2 月 3 日

人 数 16 校 286 名

農 家 延べ 75 戸

- ・國學院久我山中学校（東京都）の受入事業

時 期 男子～平成 22 年 9 月 1 日～2 日（1 日半の日帰り農業体験）

女子～平成 22 年 9 月 3 日～4 日（1 日半の日帰り農業体験）

人 数 53 名（男子 24 名、女子 29 名）

農 家 15 戸

※これらのほかに、個別農家単位での受入れ等の取組も行われています。

(2)豊かな森づくりのための取組

①市民植樹祭

開 催 日 平成 21 年 6 月 14 日 丸加高原にて

参加者数 140 人

(3)川との共生に向けた取組

①まちづくり・川づくり協議会の活動

- ・石狩川クリーンアップ作戦（美化活動）・石狩川再生の森植樹祭

石狩川築堤の蛸の首樋門から北海道の森、ラウネ川とその周辺の清掃活動

参加者 80 名、植樹 119 本

- ・石狩川流域住民防災大会

基調講演

- ・ミントチ祭り（交流連携事業）

西滝川・ふれ愛の里周辺 参加者 2,000 名

² 従来、農業体験受け入れ事業は主に地域の有志農家によって支えられてきていたという側面がありましたが、昨今、学校の修学旅行に組み込まれるケースも増え、道外からの団体の受入需要も増えています。そこで、空知管内で地域の特色を活かした都市農村交流に取り組んでいる各団体が相互に連携、ネットワーク化し、“そらち DE い〜ね”として、そういったニーズに円滑に対応するための取組を進めており、滝川の農業者においても、道内外からのたくさんのお客様の受け入れを行っています。

(4)自然とのふれあいへの取組

①「たきかわ環境フォーラム」による主な活動状況

■エコカフェの開催（全6回）

※テーマに沿って講師を中心に身近な環境問題について語り合う集いです。

「滝川にエゾシカがやってきた」（たきかわ環境フォーラム代表：平田剛士さん）

「サケ稚魚放流を考える」（札幌市豊平川さけ科学館：有賀望さん）

「沖縄・竹富島のディゴを救え！」（たきかわ環境フォーラム：吉住晴美さん）

「野鳥写真のこしかたゆくすえ」（野鳥写真家：大橋弘一さん）

「カワヤツメを探せ！」（「ふるさとの自然再発見」プロジェクト）

「三日月湖の生き物たち/第一出島川生物調査報告会」（ " ）

■「たきかわエコ・フェスタ 2010」の開催

○パネルディスカッション

○ネイチャー作品上映会

○エコロジー体験会（「丸太でオリジナルコースターを作ろう」）

○ランチディナー（特製ふるさとディッシュ エゾシカを使って）

■「身近な水環境の全国一斉調査」に参加

滝川市南東部の石狩川水系空知川において COD（化学的酸素要求量）値を測定

■「エコフェスタ 2010 実行委員会」に参加

■「東滝川自然観察会（東滝川農地水環境協議会主催）」に参加 など

※たきかわ環境フォーラム（代表：平田剛士氏）は2003年に設立され、「ふるさとの自然、再発見」を合い言葉に、独自に様々なユニークな活動を展開されていることから、ここでその活動実績の一部について取り上げさせていただきました。 →たきかわ環境フォーラムホームページ <http://ecoup.la.cocacn.jp/>

②「そらぶちキッズキャンプ」実現化支援事業

市は、滝川の豊かな自然を生かし、小児がんや心臓病などの難病の子どもたちが安心して自然体験を楽しむことができる「そらぶちキッズキャンプ」の実現化への取組に対して、支援を行っています。既に行われているプレキャンプなどを通じて、子どもたちや家族、ボランティアスタッフの方々など、多くの皆さんの心の環ができています。

■そらぶちの森(高原基金の森)オープニングセレモニーを開催

ユニ・チャーム(株)創業者の高原慶一朗氏が「未来へつなげる森づくり」を支援する「高原基金の森づくり事業」により整備を進めてきた「そらぶちの森」が完成したことを受け、高原慶一朗氏をお招きし夏キャンプに参加した子どもたちと一緒にオープニングセレモニーを開催しました。

(4) 人の環(わ)づくり 物語

1 平成 22 年度における数値目標の達成状況について

環境学習リーダーの人数

目標値 (平成 18 年度～27 年度累計) 100 人

実績値 (平成 22 年度末累計) 87 人

(うち H22 年度 15 人/年)

☆前年度までの状況

H18 10 人/年

H19 16 人/年 (累計 26 人)

H20 34 人/年 (累計 60 人)

H21 12 人/年 (累計 72 人)

環境市民大会※の参加者数

目標値 100 人/回

実績値 (平成 22 年度) 85 人/回

☆前年度までの状況

H18 107 人/回

H19 150 人/回

H20 147 人/回

H21 150 人/回

※環境市民大会は環境に関する市民からの意見等を聴取する場として市が毎年、開催することとしています。



今後に向けた課題など…

環境市民大会の参加者数は目標に到達しませんでした。今後は、さらに幅広く参加していただけるような企画づくりや工夫が必要といえます。

2 平成 22 年度の主な取組等について

(1)環境学習リーダーの養成講座の開催

・開催日程及び内容

○第 1 日目(3 月 23 日、座学)

「3 R 検定問題にチャレンジ！」

受講者には 3 R 検定で出題された問題 50 問に実際に挑戦していただきました。後半は 1 問ずつ、答え合わせをしながら、3 R に関する基本的知識を勉強していただきました。

○第 2 日目(3 月 24 日、施設見学)

2 日目は恵庭市内にある先進的な環境配慮型の二つの工場を訪ね、お話を伺いながら、実際にその取組の様子を目にすることで、現場の様子を感じ取っていただきました。

①株式会社アレフ北海道工場

→びっくりドンキーでおなじみのハンバーグレストランを展開する同社は、循環型農業



の実践や工場への新エネ、省エネ設備等の導入など先進的な取組を積極的に進められています。

②サッポロビール株式会社北海道工場

→工場全体で処分される廃棄物の排出をゼロにするといういわゆる「ゼロエミッション」を達成し、その取組が評価され、北海道庁による「ゼロ・エミ大賞」なども受賞しています。



参加者数

第1日目 17名 第2日目 15名

※うち両日とも参加 15名

(2)市民環境学習ツアーの開催

環境問題に関心のある市民を募り、札幌市内で開かれる環境関連イベントに参加しました。参加者たちは、写真展やビデオ上映鑑賞などのほか、北海道大学の古市教授の基調講演や行政機関や事業者等からのバイオマス活用に関する事例発表などに熱心に耳を傾けていました。また、ロビーではバイオマス関連の製品などが無料配付されるサービスなどもあり、参加者たちは思いがけないプレゼントと貴重な経験を手みやげとして滝川に戻ってきました。

- ・参加イベント名
北海道バイオリサイクルフェスタ
(主催：北海道バイオリサイクルフェスタ実行委員会)
- ・会場
北海道大学
- ・(滝川市からの)参加者数 15名



(3)たきかわエコ・エネスクールの開催 (再掲)

当該イベントを環境市民大会として位置づけ、参加者に平成 21 年度の年次報告書の概要をご報告申し上げるとともに、環境政策に対する御意見をいただく機会として会場でアンケートを実施いたしました。

- ・アンケート結果の概要
アンケート配布者 85名 回答者数 41名、回収率 48.2%
回答者性別内訳 男性 26名 (63.4%) 女性 15名 (36.6%)

(設問1)

普段の生活のなかで環境問題を意識することはありますか？

	回答数	割合 (%)
①ある	19	58.0
②たまに意識することがある	19	38.3
③ほとんど意識しない	1	1.2
④無回答	2	2.5

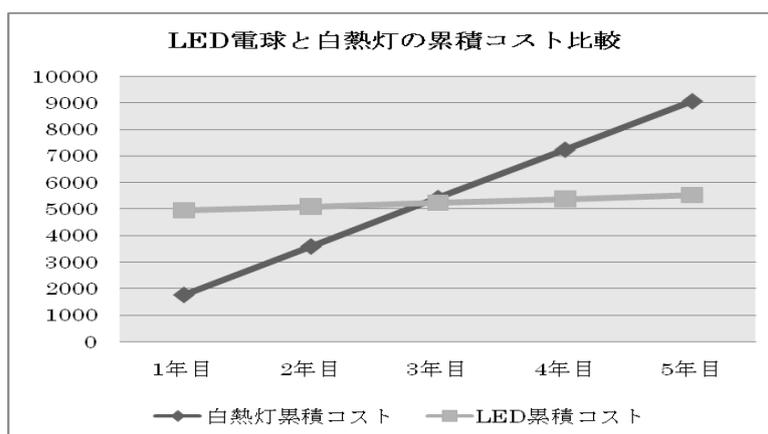
(設問2)

家の洗面所の白熱灯(いわゆる裸電球)が切れてしまったので、電気屋さんに新しい電球を買いに来ました。お店には、今までの白熱灯の横に、今、話題のLED(エル・イー・ディー)電球が並んでいました。この二つを比較すると次のような違いがあります。あなたならどちらを選びますか?(どちらもほぼ同じ明るさとします。)

	①従来の白熱灯(裸電球)	②LED電球
価格(1個)	80円	4,800円
消費電力	40W	4.3W
寿命	約1千時間	約4万時間

	回答数	割合
①白熱灯を買う	12人	29.3%
②LED電球を買う	22人	53.6%
③家に帰ってどちらがよいか考える	7人	17.1%

(参考) 上の設問2の条件で、それぞれ毎日5時間、使用した場合の電気代と電球代を合わせた累積コスト(単位:円)のシミュレーションは次のとおりとなります。



LED電球は購入するときの値段は高いのですが、白熱灯に比べて消費電力がおよそ10分の1、寿命が40倍といわれていますので、一度、取り替えてしまえば以後の電気料と電球の交換(購入)費を抑えることができます。このシミュレーションでは、3年を経過したところで、LED電球の方が累積コストの上でも得になるといえます。なお、現在はこのアンケート調査時点よりもLED電球自体の低価格化がかなり進んでおり、LEDへの切替メリットは今後もさらに拡大することが予想されます。

ただし、1日の点灯時間がごく短い場合には、この逆転は先に伸びることになりますので、それぞれのライフスタイルに合わせて、もう少し価格が下がるのを待つという選択肢もあるかもしれません。

環境都市宣言

わたしたちのまち滝川は、石狩川と空知川に育まれた豊かな大地と自然の恵みを受けて、健康で文化的なまちとして発展してきました。

しかし、今、人々の営みは、豊かな自然や調和のとれた地球環境に大きな影響を与えています。

21世紀を迎え、わたしたちは、地域の優れた環境を再生し、美しい地球を未来に引き継ぐため、環境にやさしいまちづくりに努めることを誓います。

平成15年1月1日

滝川市



たきかわ「環のまち」物語

— 年次報告書 —

(平成 22 年度版)

〒073-8686

北海道滝川市大町 1 丁目 2 番 1 5 号

滝川市 市民生活部くらし支援課 環境保全・企画担当

電話 0125-28-8014 (直通)

FAX 0125-24-0154

e-mail kurasi@city.takikawa.hokkaido.jp